

マック MACC通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第77号

2026年7月17日発行

《主 な 内 容》

- ・第31回機械要素技術展に区内企業が共同出展
- ・（最終回）連載
「牛山博文のモ～ひと工夫！Vol58」
- ・連載「サステナブル経営とSDGs Vol16」
- ・連載「中村裕美のちょっとお耳を拝借」
- ・新連載「現場が変わるDXのヒント Vol1」

荒川区が進める『MACC プロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC 通信」では、この『MACC プロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

「下町の底力」が東京ビッグサイトに集結 第31回機械要素技術展に見る 荒川区企業の熱気

2026年7月1日から3日までの3日間、東京ビッグサイトで日本最大級の製造業専門展「第31回 機械要素技術展（M-Tech）」が開催され、区内企業5社が共同出展、日建塗装工業㈱が単独出展をしました

今回の展示会では、区の支援のもと一丸となって挑む「荒川区共同出展ブース」と、独自の機能性コーティング技術を武器に単独出展を果たした「日建塗装工業㈱」がそれぞれ下町・あらかわの技術力の高さを国内外のエンジニアへ強くアピールしました。



荒川区共同ブース

荒川区共同ブースには、今年も公募によって選ばれた精鋭中小企業5社が出展しました。

各社の展示は、

- ・アームシステム㈱：デジタルマイクロスコープや顕微鏡などの光学・観察機器。
- ・㈱光陽社：高度な表面処理・バフ研磨技術。
- ・㈱コマック：現場のニーズに応える機械部品・加工ソリューション。
- ・志幸技研工業㈱：監視カメラと放送の融合システム。

- ・細淵電球株式会社：医療・航空宇宙などの特殊領域で不可欠なオーダーメイドの特殊電球技術と消臭器「ダッ・シュート（臭止）2」の展示。

また、日建塗装工業㈱は、製造現場が抱える「付着」「摩耗」「腐食」の課題を解決する機能性表面処理技術を展示しました。



日建塗装工業㈱のブース

荒川区ブース・日建塗装工業㈱ブースのいずれも多くの方の関心を集め、活発な商談が行われました。



社 名	所 在 地	P R ポ イ ン ト
アームシステム株式会社	荒川 2 丁目	既製×専用設計で装置に最適な光学をご提案します
株式会社光陽社	東日暮里 5 丁目	磨き続けて一世紀 研磨の明日をひらき、次の 100 年へ
株式会社コマック	荒川 5 丁目	お客様に喜ばれるものづくり
志幸技研工業株式会社	西尾久 5 丁目	監視カメラと放送の融合システム
細淵電球株式会社	西日暮里 1 丁目	嫌な臭いが一晩で消えている消臭器「ダッ・シュート（臭止）2」100年電球・ハロゲンランプ再生工場

（最終回）連載～その 58～



牛山 博文の ひと工夫！



MACC と共に歩んだ 15 年。
荒川区のものづくり経営者に贈る言葉



MACC シニアコーディネータ牛山博文

MACC 会員の皆様、こんにちは。

コーディネータの牛山博文です。

これまで 15 年間にわたり、荒川区の中小企業、特に製造業の皆様を応援する「MACC プロジェクト」の推進に邁進してまいりましたが、私の執筆する記事は今回が最後の配信となります。

下町の職人技が息づく荒川区の工場を回り、皆様の熱い想いに触れ、共に「ものづくりの街」を盛り上げてこられたことは、私の人生のかけがえのない誇りです。

振り返れば、事例こそ決して多くはありませんでしたが、皆様と大学などの研究機関を結びつけた「産学連携による新商品開発」、そして中小企業初の独自ブランドとなった「MACC 商品」の開発にいくつか携わり、お手伝いできたことは、私にとって深く印象に残る最高の思い出です。下町の技術力と新しい知恵、そして独自のブランド力が融合したときの爆発力を、肌で感じさせていただきました。

15 年間で現場を見てきた私が確信した、「ものづくり経営で本当に大事なこと」を 3 つのメッセージとして贈ります。

1. 「クラスタ（つながり）」の力を活かし続けること

MACC の核心は、企業や人、職人、そして大学などの外部機関との「つながり」にあります。自社一社では解決できない課題も、この荒川区のネットワークがあれば乗り越えられます。技術や知恵を共有し、連携し合うことこそが、中小製造業の最大の強みです。

2. 「自社の誇り（技術とこだわり）」を磨き続けること

大企業の大量生産と同じ土俵で戦う必要はありません。皆様が持つ「独自の高い技術」や「細やかな対応力」こそが強力な武器です。「なぜ、お客様は自社を選んでくれるのか」という原点を追求し、自社らしさを磨き続けてください。

3. 経営者自身の「心身の健康」を保つこと

現場の指揮から経営まで、多くの役割を背負う皆様は常に多忙です。だからこそ、ご自身のケアを後回しにしないでください。経営者の元気と笑顔こそが、工場を動かし、会社全体を照らすエネルギーの源泉です。

最後に

荒川区の、そして日本の経済と技術を支える皆様の挑戦は、本当に尊く、価値のあるものです。

15 年間、私を信頼し、共に並走させてくださり本当にありがとうございました。

MACC のネットワークがこれからも発展し、皆様の会社が豊かな未来を切り拓いていかれることを、心より応援しております。

これまで本当にありがとうございました。

荒川区産業経済部経営支援課 産学連携推進員
（MACC プロジェクトシニアコーディネータ）

牛 山 博 文

サステナブル経営とSDGs

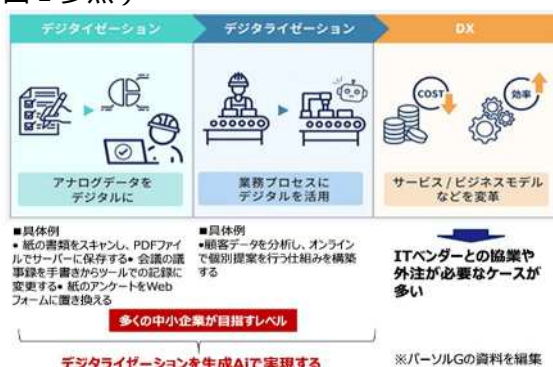


MACC コーディネータ
大宮政男

～デジタイゼーションから AX へ —中小企業経営革新の新たなステージ～

近年、多くの中小企業で DX（デジタルトランスフォーメーション）が経営課題として取り上げられるようになりました。しかし、DX を正しく理解するためには、その前段階である「デジタイゼーション」「デジタライゼーション」、そして生成 AI 時代の「AX（AI トランスフォーメーション）」までを一連の流れとして考える必要があります。

（図 1 参照）



第一段階である「デジタイゼーション」とは、紙などのアナログ情報をデジタル化することです。例えば紙の帳票を PDF 化する、会議の議事録を電子データにする、紙のアンケートを Web フォームへ置き換える、重要で参照が多い図面を電子化する、といった取り組みです。これは情報をデジタル資産に変える段階であり、DX の出発点となります。

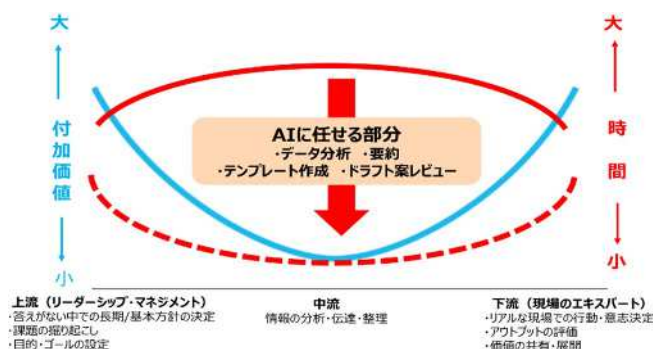
第二段階が「デジタライゼーション」です。ここでは、デジタル技術を活用して業務プロセスそのものを改善します。顧客データを分析して最適な提案を行う仕組みや、受発注や営業活動をシステム化することで、業務効率を高めます。多くの中小企業が現在目指しているのは、このデジタライゼーションの段階です。さらに近年では、生成 AI の活用によって、高額なシステム開発を行わなくても業務改善を実現できる場面が増えています。生成 AI は、中小企業がデジタライゼーションを加速する強力な推進力となっています。

第三段階が DX です。DX は単なる業務効率化ではありません。デジタル技術を活用してビジネスモデルやサービス、企業の競争力そのものを変革することです。例えば、製造業が製品販売だけでなく保守サービスを提供するなど、企業の提供価値そのものを変えることが DX です。しかし、自社内に IT 人材を確保することや IT ベンダーへの外注などが必要なケースが多く、中小企業では難易度が高くなるものと思います。

しかし、生成 AI の登場によって、中小企業でもそ

の先の経営革新が見えてきました。それが「AX（AI トランスフォーメーション）」です。AX は、AI を単なる業務効率化の道具ではなく、「経営のパートナー」として活用する考え方です。生成 AI が最も得意なのは、情報分析、要約、資料作成、ドラフト作成などの中流業務です。これらを AI が担うことで、人はより付加価値の高い仕事へ時間を使えるようになります。経営者や管理職は、将来のビジョンを描き、経営課題を発見し、戦略や目標を決定するといった「上流」の仕事に集中できます。一方、現場では顧客との対話や現場改善、品質向上、最終判断など、人にしかできない「下流」の仕事へより多くの時間を投入できます。つまり、生成 AI は価値の低い仕事を代替し、人は価値の高い仕事へシフトすることができるのです。これが知的スマイルカーブの考え方です。（図 2 参照）

（図 2）知的スマイルカーブ



これまで中小企業は「人を増やすことで成長する」ことを目指してきました。しかし、人口減少と人手不足が進む時代では、それは容易ではありません。これからは「社員一人ひとりの知的生産性を高める経営」が競争力になります。

まずは、中小企業は「デジタイゼーション」で情報をデジタル化し、生成 AI によるデジタライゼーションで業務改善を実施することを目指すべきかと考えます。まさに AX は人と AI が協働して企業価値を創造する改革です。

中小企業は、大企業のように人材や資金を潤沢に投入することが難しい一方で、経営者の意思決定が速く、組織も比較的柔軟です。そのため、生成 AI を活用することで、一人ひとりの生産性を飛躍的に高めることができます。中小企業こそ、生成 AI を経営のパートナーとして活用し、経営者は戦略を考え社員は顧客や現場で価値を生み出す仕事に集中する。この新しい経営スタイルがこれからの持続的な成長を実現する鍵になるでしょう。

中村裕美の “ちょっとお耳を拝借 ”

カラーワークス(株)は、東尾久8丁目に本社を置く、平成27年創業の企業です。地域に根差し、ホームページや動画などのデジタルコンテンツ制作を中心に、パンフレットや会社案内などの紙媒体の制作も手掛け、近年は、企業の情報発信から採用活動まで、一貫した企業の魅力や価値を伝える支援にも力を入れています。

今回は、同社のものづくりへの姿勢や企業支援への想いについて、事業全体を統括する川島日出太クリエイティブディレクターに、MACC コーディネータの中村裕美がお話を伺いました。



川島日出太クリエイティブディレクター

中 村：本日はどうぞよろしくお願いいたします。近年は、生成 AI の普及により、企業自身が文章やコンテンツを制作することも容易になりました。こうした変化をどのように捉えておられますか。

川島氏：まさにその通りで、AI の活用が進み、自社でホームページ制作や情報発信に取り組む企業が増えています。一方で、「自社の強みをどう表現すればよいか分からない」「他社との差別化が難しい」といった課題もあり、結果として私たちのような専門家へ相談されるケースが少なくありません。

中 村：ホームページのリニューアルでは、どのような相談が多いのでしょうか。

川島氏：「問い合わせを増やしたい」「売上向上につなげたい」といったご相談が中心です。その際は、単にデザインや構成の更新だけではなく、自社の強みや特徴、選ばれている理由を整理し、分かりやすく伝えることが大切とお伝えします。当社では、企業価値を客観的に整理し、伝わりやすい言葉やデザインへと落とし込むことを重視しています。さらに、動画の活用や SEO 対策、導線設計なども含め、お客様の目的に応じた提案を行っています。ホームページは公開して終わりではありません。公開後も運用をサポートし、継続的な修正や改善を重ねながら、企業の魅力をより効果的に発信できるよう、成果につながるホームページづくりを目指しています。

中 村：企業の強みや価値を整理する際、どのように情報を引き出しているのでしょうか。

川島氏：初回訪問で丁寧にヒアリングを行い、企業の歴史や理念、製品開発の背景、顧客層などを伺います。その中で、企業自身も気づいていない強みが見えてくることも少なくありません。その強みを軸に企画・制作を進めるのが当社のスタイルです。また、デジタルと紙媒体の両方をワンストップで企画・制作できる点も特徴で、統一したブランド設計を実現できます。

中 村：最近では、多くの中小企業が人材確保に苦労する中、採用活動のためにホームページを活用する企業も増えているそうですね。

川島氏：求職者は、応募前に企業サイトを確認し、理念や社員の様子から、企業文化や職場の雰囲気把握する傾向があります。そのためホームページは、製品紹介にとどまらず、企業の価値観や文化を伝える採用ツールとしての役割が重要になっています。求職者に「この会社で働いてみたい」と感じてもらうためには、企業の価値や想いを適切に発信することが欠かせません。

中 村：御社ではクラウドファンディングのページ制作にも力を入れていると伺いました。

川島氏：クラウドファンディングでは、製品スペック以上に、背景にある開発ストーリーが重要です。当社では、製品の魅力はもちろん、企業や開発者の想いを丁寧に掘り起こし、動画や演出も活用しながら共感を生むページづくりを行っています。10年以上お取引のある企業の中には、毎年新製品を開発し、その都度当社のクラウドファンディング支援をご利用いただいている企業もあります。

中 村：最後に、今後の展望についてお聞かせください。

川島氏：私たちは単なる制作会社ではなく、お客様の価値や想いを見出し、それを社会へ届けるパートナーでありたいと考えています。今後も対話を重ねながら、営業活動や採用活動、新たな挑戦を支えるコミュニケーションづくりに取り組んでいきます。

中 村：AI の普及により情報発信は容易になりましたが、「何をどう伝えるか」の重要性はむしろ高まっています。丁寧な対話を通じて企業の本質を言語化し、形にしていけるカラーワークス社の取り組みは、多くの企業の価値向上につながっていると感じました。本日はありがとうございました。

連載～その1～

現場が変わる DX のヒント



MACC コーディネータ
柏木 昭彦



現場と IT をつなぎ、荒川のものづくりを支えるために
～ MACC プロジェクト・コーディネータとして～



「システムを入れれば解決する」
——そう思ったことは、一度もありません。

はじめまして。このたび MACC プロジェクト・コーディネータに着任しました、柏木昭彦です。

いままで、IT エンジニア・中小企業診断士として、製造業・サービス業の DX 推進や現場改善に携わってきました。初回のこのコラムでは、まず私自身のことをお話しさせてください。

【現場を知っているから、言えること】

私は社会人としての前半を製造業の現場で過ごしました。

工程改善、生産管理、現場運営——実際のものづくりを経験した後、IT 分野へ軸足を移し、システム導入や業務改革の支援をしてきました。

両方を見てきたからこそ、正直に言えることがあります。

現場には現場の都合や忙しさがある。新しいシステムが「使われないまま終わる」場面も何度も見てきました。

だからこそ、現場で無理なく使えること、続けられることを何より大切にしています。

【DX や AI は、困りごとを解決する手段のひとつです】

最近よく耳にする DX や AI。大掛かりな投資が必要と思われがちですが、そんなことはありません。

- ・「紙や FAX を減らしたい」
- ・「受注業務をもう少し楽にしたい」
- ・「技術やノウハウを記録に残したい」

こうした身近な困りごとを“なんとかしたい”の積み重ねが、結果として DX になります。

生成 AI も、小さく始めて効果を見ながら育てる進め方で十分です。

【まずは、話を聞かせてください】

- ・「何から始めればいいのかわからない」
- ・「IT は苦手だけど、少し気になっている」
- ・「こんなこと相談していいのかな」

そんな状態で大丈夫です。

むしろ、そこからが私の出番だと思っています。

休日は街をひたすら歩き回ります。

知らない工場の前で立ち止まるのも、ちょっとした楽しみです。荒川区の路地も、これから歩き尽くすつもりです。

荒川区のものづくりを支える皆さまと、一緒に考え、一歩ずつ前に進んでいければと思っています。

次回からは、具体的な DX・AI 活用のヒントをお届けしていきます。どうぞよろしくお願いします。



柏木 昭彦

身：兵庫県神戸市

格：中小企業診断士・IT コーディネータ

得意分野：製造業・サービス業の業務改善、DX 推進、生成 AI 活用

趣味：街歩き（休日は 2 万歩以上歩くことも、荒川区はホント坂道が少ないですね）

荒川区では、区内中小企業者の皆様に無料の税務相談の窓口を開設しています。

※相談は東京税理士会荒川支部所属の税理士が行います。

対 象	荒川区内で事業を営んでいる中小企業者及び荒川区内で事業を始めようとしている方
相談内容	確定申告書(決算書)の記入の仕方、帳簿等の記入の仕方など一般的な税務相談 ※複雑な事案の相談、個別事業案件などお答え出来ない場合があります。
開設日時	毎週火曜日(休館日、祝日、年末年始を除く)午後 1 時から午後 3 時(1 時間単位)
開設場所	ゆいの森あらかわ 4 階ビジネスコーナー
相談申込	ホームページからお申込み下さい
	リンク先 https://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/contents?O&pid=123
問合せ先	ゆいの森あらかわ ビジネス担当 電話 03-3891-4349

※専門的な相談については、各分野の専門家による相談を行っていますので、ご利用下さい。

問合せ先 産業経済部経営支援課産業活性化係 電話 03-3802-3111 内線 458